

## 小学校英語活動レポート

|  |   |  |  |
|--|---|--|--|
| ターゲット  | “○○, please.”<br>英語で買い物のやり取りをし、コミュニケーションを楽しむ。   |  |  |
| 主な語彙   | tomato, carrot, potato, apple, banana, peach, candy, chocolate, ice cream, book, pencil, tape   |  |  |
| クラス  | 3年生（3年1組） 32名、 45分間   |  |  |
| テキスト   | 特になし  |  |  |
| 他に使ったもの                                      | アイテムカード（大・1セット=B5サイズのアイテムカードを12枚、 マグネット<br>（小さいサイズのアイテムカードも用意してあったが、買い物ゲームも大サイズのカードを使った）<br>歌のCD <a href="#">"Let's Sing Together" (アプリコット)</a> |  |  |
| 授業の流れ  | 主な活動  |  |  |
|  | HRT(担任)   | ES(英語サポーター)  | 子どもたち                                  |
| Greeting                                     | Good morning.<br>How are you?   | Good morning!<br>(自己紹介)  | Good morning!<br>-I'm ○○. How are you? |
| Warm up<br>♪ Head, shoulders, knees and toes | ♪ Head, shoulders, knees and toes<br>CDをかけて、一緒に動作をする。   | Please stand up.<br>Are you ready?<br>歌いながら、動作をリードする。<br>Faster!   | 立ち上がって、CDに合わせて歌いながら動作をする。              |
| Practice                                     | マグネットを使い、カードを黒板にとめる。(野菜、果物、甘いもの、文房具、各グループ3枚ずつのカードが縦に並ぶように)<br>サポーターの後に続いて、子どもたちと一緒に発音する。  | カードを提示し、各単語の発音をする。<br>What's this?<br>Yes, it's an apple.<br>Apple. Let's say "apple" three times.<br>Well done! | 手を挙げて、カードの絵の表わす単語を答える。<br>Apple!       |
| Activity1<br>The whisper game                | 伝言ゲーム。<br>列ごとにグループができるように指示し、伝言を聞く子どもを教壇に呼ぶ。<br>伝言が終わったら、順に発表させる。   | カードを選び、各グループの代表者に伝言する。<br>(1回目:1単語<br>2回目:2単語で行った)   | 自分の聞いた単語を、次の子に伝える。列の最後の子は、立ち上がって発表する。  |

↓ 金井さやかより、コメント ↓

クラス担任は、50代女性教諭。  
"What's her name?" がとっさに  
"What, name, she" という具合だったが、英語を普段から話していなければ当然のことなので、特に問題はなかった。クラスに目配りしつつ、活動の区切りで指示も出されていたので、TTがスムーズに進んだ。

子どもたちは、英語活動の時間に英語の名札をつけている(ファーストネーム)。  
男子児童の中には、「19歳のさやか先生～」と手を挙げてアピールしてくる子も(若くて素敵な先生、と呼びかけて自分を指名してほしい様子笑)。私は、拳手をしているかどうかに関係なく、こちらのペースで指名している。(主導権は子どもたちではなく、講師側なので)

"Tape, carrot" という2単語の伝言が、5人ほどの列の最後では全く違う単語になったチームもあった。どこで違ってしまったのか軽く確認したものの、しつこく追求せず、「不思議だね、面白いね」という楽しい雰囲気のまま、次の活動に移った。

|                               |   |  |   |
|-------------------------------|---|--|---|
| Practice                      | 買い物のやり取りを実演する。  | 買い物のやり取りを実演する。<br>(担任教師とお客・店員役を交代して<br>2回見せる)  | 実演を見て、口頭で繰り返す。  |
| Activity2<br>Shopping<br>game | 子どもたちを4つのグループに分<br>け、カードを渡して指示をする。<br>その後、各グループを回って活動<br>の手助けをする。 | 各グループを回って、発話の助けをし<br>たり、ほめたりする。<br><br>Please come over here.<br>What are you going to buy?<br>Chocolate?<br>Go ahead. Say, "Chocolate please."<br>Good! | 4グループに分かれて、活動を行<br>う。   |
| Review                        | 席に戻るように子どもたちに指示<br>する。  | カードを指しながら、英語表現をリス<br>ムよく復習する。<br>単語だけでなく、先ほどの表現を使っ<br>て「クラス全体」対「講師」のやり取<br>りになるように。  | 例) (クラス) Tape, please.<br>(ES) Here you are.<br>(クラス) Thank you.<br>(ES) You are welcome.<br>別の単語グループでは、役を<br>交代して行う。 |
| Closing                       | 「さやか先生に Thank you. と<br>言います」                                     | Thank you. I hope to see you again<br>soon.  | Thank you, goodbye.   |

今回の単語は、2年生のときにも取り上げたことがあるとのことで、活動の前半はスムーズに進んだ。しかし、"Here you are." あたりは、明らかに練習不足。この表現は、担任の指示にあわせてすぐに活動に入るのではなく、1分でもいいので口頭練習を徹底しておくべきだった、と反省しながら、個別のフォローを続けた。

ただ単語を口頭で復習していただくだけでなく、活動の最後は表現の確認とした。こうすることで、直前の活動の振り返りになり、「よくわからなかった」「うまくいえなかった」という気持ちを残さず、締めくくることができる。

- ◆ 表現について・1：店員がお客に対して “You are welcome.” というケースはあまり多くはないのでは？ と思ったが、
  - ・ “Thank you.” に対するベーシックな返答であること
  - ・ 「店員が、お客の買いたい品物を探すなどして手伝った」などの場合にはありうることを考えて、そのまま練習ターゲットとした。

- ◆ 表現について・2：単語の冠詞、複数形などへの配慮はどうすべきか、という課題が残った。

今回の単語は、指導案の段階ではすべて「単数、冠詞なし」だった。私のように不定期に関わるケースで、指導する側が一貫性を持って提示できないのであれば、現場や子どもたちに余計な混乱を招く。そのため、今回の指導は基本的に指導案に従った。（今回のカードでは banana の絵が複数だったので、活動のときは “One banana, two bananas. Bananas. Bananas, please.” と紹介するにとどめた。）

個人的には、繰り返して使い「体で覚える」感覚で、少しずつ慣らしていけばこのような区別はできる、と思っている。（ネイティブや英語学習者が、実際に身につける方法と同じである。）これは年単位の指導案作りの時点で議論すべき問題だが、機会があるごとに問題提起していきたい。

## Activity: The Whisper Game

- (1) 教室の座席ごとに、5~6人が一列になるようにチーム分けをする。
- (2) 列の先頭の子が教師のところに集まり、伝言する内容（今回は単語）を聞く。  
このとき、カードを見せないで声だけで伝えるほうがむずかしくなる。
- (3) 担任の “Ready, go!” の掛け声で、列の先頭の子から次の子へ、英語で伝言していく。  
列の最後の子は、伝言を聞いたら立ち上がる（最後尾まで伝わったことを示すため）。  
そのまま、すべてのチームが伝言を終えるまで待つ。
- (4) すべてのチームが伝言を終えたら、担任の指示でチームごとに結果を発表していく。最後に正解を発表する。

子どもの並び順を変えて、再度行う。

慣れてきたら、伝言の単語数を増やすなどして、難度を上げる。

指導時のコツ：

子どもたちは、ひそひそ声で伝言することに慣れていないと、つい大きな声で言ってしまう。あらかじめBGMとして音楽などを流せるように準備しておく、伝言内容が周りに聞こえてしまうことなく活動できる。

## Activity: Shopping Game (初級)

- (1) クラスを4つのグループに分け、各グループに3枚ずつ、カードを渡す。  
グループ1：文房具    グループ2：果物    グループ3：野菜  
グループ4：甘いもの
- (2) グループ内で一人が椅子に座り、目の前の机にカードを並べる（店員役）。その他の子は立って一列に並び。
- (3) 立っている子どもたちのうち、先頭の子は店員役の子どもの所へ行き、好きなカードを指して  
“〇〇, please.” という。その後のやり取りは次のとおり。（今回は、「お金」のやり取りは省略して、ジェスチャーのみになっている）

(A:お客 B:店員)

A: 〇〇, please.

B: Here you are.

A: Thank you.

B: You are welcome.

- (4) やり取りが終わったら、カードを戻し、役を交代する。お客だった子が、椅子に座って次の店員役になる。店員役だった子は立ち上がって列の最後につく。
- (5) 順にやり取りをしていき、制限時間（担任が様子を見て指示）になったら、いったん終了する。その後グループ同士でカードを交換し、さらに活動を続ける。

(写真：今回の活動に使用したカード。グループごとに並べて黒板に掲示していった。) →



## ◆ 補助教材について

絵カードは、クリップアート（イラスト）や絵カード集から作成したもの。ラミネート済みのものとそうでないものがあった。（前ページ写真参照）  
今回利用したカードの一部は、[子ども英語BOOKS](#) CD-ROMブック「英語絵カード集 400」にも収録されています。

（→[子ども英語BOOKSシリーズをチェック](#) 私も執筆をお手伝いしたりしていますが、幅広く使える活動資料集としておすすめです。）

\* 学校の状況・・・1～6年（全学年）を対象として英語活動を実施しはじめて、2年目になる。必修化が近づいているのを受けて、昨年度の月1回程度実施から、時間数を大幅に増やして行っている。

（1コマ45分で、1～4年生 国際理解教室5時間を含む年間20時間、5、6年生 年間35時間）

学校に週2日ほど派遣されてくるAETはいるが、AETだけでは予定している全クラスをカバーできない。そこで、以下の4通りの指導形態を適宜取り入れている。

「担任のみ」

「担任+AET」

「担任+日本人サポーター」

「担任+AET+日本人サポーター」

◆ 教室でのサポートがメインになるため、活動中の写真などは撮影できませんが、実際の授業内容を元に、できるだけ分かりやすく、再現しやすく、といった点に気をつけながらレポートを作成しました。ご質問・ご要望などがありましたら、遠慮なくお寄せください。レッスンプランへのご意見、実際に取り入れてみての様子や感想などもお待ちしております。

メールアドレス [info@english-box.com](mailto:info@english-box.com) (English-Box 金井さやか)

## ● 活動を終えて：

活動前日に、学校からFAXで指導案を送ってもらった。打ち合わせのため、折り返し電話してFAX送信をしてくれた先生と話し、一通り流れを確認したところで「先に知っておくべきこと、クラス内で気になる子の情報などはありますか」と聞いたところ、「私は同じ活動をする予定の隣のクラスの担任なので、（金井さんのクラスの）担任にかわりますね」とのこと。（ええ～?? 私が今まで話していたのは担任の先生じゃなかったの!）電話口に先ほどと同じ先生が出て、「特にないそうです」…（もしかして、担任の先生は私と話すのが面倒なのかしら、と少しショック）

さて、当日。「よろしくお願ひします」と言った女性教諭、担任のK先生の表情は硬い。活動を開始して、K先生は英語に苦手意識が大きいのではないかと気づいた。クラス管理はベテランで、子どもたちにも慕われているが、「英語活動の導入」に対する不安が大きいのだろうと思う。

小学3年生の子どもたちは、大人のような抵抗感がないため、英語活動も楽しい時間として過ごせる。今回は、単語の練習で「3回ずつ口頭練習」で盛り上がってきたとき、子どもたちの明るい声を聞いて、K先生の表情も明るくなったのが印象的だった。（私も嬉しかった!）

買い物の活動中、教室を回っているときに「子どもたち、英語を好きになってくれますかね」と問いかけてきたK先生の、子どもたちを気遣う口調は、忘れないでおきたい。（私からは、「はい! 楽しい気持ちを覚えていてくれるようにしましょう」と笑顔で答えた。）最後は先生もほっと明るい表情での別れとなった。

約2週間後に同校を訪れたとき、K先生が職員室前を通りかかり、「先生すばらしいのよ、プロなのよ♪」と私のことをほかの先生に紹介してくださった。小学校での英語活動担当は、子どもたちに働きかけるだけでなく、現場の先生たちが楽しく英語に向き合えるよう、環境づくりをしていくことが大事だと改めて感じるできごとだった。